

武教全書口訣

步戰
騎戰

廿一

萩圖書館圖書	
部門	七乙一
番號	六
冊數	二八



武教全書口訣

步戰

敵之馬工多步戰者
 山林險阻之地戰者
 平陸之處八馬工者
 險阻之處八馬工者
 馬工之戰不自中一
 步者八馬工之戰
 馬工之戰不自中一
 步者八馬工之戰





武教全書口訣

步戰

敵三馬上多々味方二馬並者加キ事
心得也

敵三馬上多々味方二步者多時謀切之事

一 山林險阻ノ地敵二便テ可儉事

平陸ノ處ハ馬上二便テ可儉事

險阻ニ便テテ遠外ニ軍ニ然レハ敵

馬上ノ勸不自申ニ又歩者ハ馬ニ便利

多キ也

一 野ノ要害ノ事有逆攻木ノ事

止事ヲ得ス廣原平陸ノ處ニ戰ヲ遂ル

一 山ノ事ニ堀トトホリ土居トトツキ

或ハ柵ヲフリ馬上ノ衝トリ難キ如ク

此ニ取テ要害ノ險ヲ設テ戰ヲナスハ

是久シク可用真ニ非ス故ニ野ノ事

害ト云付リ逆攻木トハ右様ノ手段急

九 結ニナラズハ山ノ木ヲ伐クホシ逆攻木ニ

一 野ノ通路ヲ塞キ敵ノ足障リヲナスヘシ

一 河ヲ戰フニ利ナレバ事行ハズ

一 岳首ノ懸テ戰ヲ為スナレバ馬上ニ馳立

テレテ早ク劣レ敗ル首ニ隈リニ筋尺

ズ敵ヲ待ニキ受テ戰ヲナスニ勝利ヲ

得ルニ事ナレバ

兵添日岳戰首要之險歩首便待而戰

一 岳歩戰ハケニ阻ル地形ニ便テ要トナレ

足リト力ク敵ヲ待ニキ受テ戰ヲナスニ

便リアルニ

一 馬ヲ入ラレカレテ立心得ノ事

一 午ノ旁目ノ滑ヲ甲ニ入シ足控ヲ厄

右ノ分ヲ滑入馬柄ヲ中ニ立ヲリ敷也

穂先ヲ向ニテ石突ヲ上ニ突立滑ル

ナリ侍滑ニ故ニ阴ノ滑ニテテ款蒐リ

来ル寸刻左右ノ足控ヲ押出テ款ノ滑

一 刃ヲ折立ル心然ル寸刻イハテ款馬止

達首ヲモ馬ヲ入ル事ナラシテ者ナリ

一 坐滑ニ馬ヲ遠リクル心得ノ事

一 坐滑ニテ振テ頭奉行内外ナレモ所

立馬ヲハ振馬ノ置ル事ニ是定

法ニ然ルニ爰ニ心得下云ハ款馬止多

一 一ノ下秋ニ馬止少ナレハ還テ害ヲ不

一 一ノ下夏アリシカレハ戦ヲナスニ至リテ

一 一ノ下定添ヨリモ尚又滑ヲ遠リケテ立ル

一 一ノ下宜也

○ 足軽預ケ振之事



足輕ノ下ヲ去ハ歩音ノ戦ヲ十ノ二相
類シタル故ニ歩戦ノ跡ニ出セリ

一 五ヨリ始リテ五寺組ノ事ハ五人ニ一人
警固ノ事

足輕五人ヲ一モヤニニ一人五々凡五人
夫一組トスルニ一伍一モヤニニ

壹人ヲ一寺ノ侍ヲ警固ニ行ハシ是
手頭ト成テ五人ヲ一判スルニ

一 弓射早キ勝負ニ三ツ一ツ以テスル事

一 鉄炮ノ玉込ヲ又其間ニ射候様五六筋

一 玉射出ス故ニ早民勝負ト云故ニ又下

一 玉込鉄炮ニ挺ニ弓ハ十張カ下組合テ

一 玉直下ニ又其間ニ射候様五六筋

一 弓鉄炮組合テ可預事ニ置テ預置戸宜

一 箭々一組下弓鉄ヲ組合セテ預置戸宜

一 常分置変ニ臨テ組交ルテハ階級ヲ命

一 入シ早キ音鉄炮ノ下知ヲ又又下下

一 云テ折合ナク下下下下下下下下下下

十リ

一 大足輕中足輕小足輕イッレモ其将ニ依

テ預ル事

一 大ハ百人中ハ五十人小ハ凡五人ノ

一 大中小ハソノ将ノ悉量ニ應ジ預ル也

足輕命立武切之事

一 小連

小連横ハ十丈ニ平間壹歩ニ三人ヲ立テ

一 一ノ餘間三ノ餘間遠近度量教戦闘戦争ヲ得

一 大アリ

鉄炮

鉄炮 警固

鉄炮

鉄炮

鉄炮

一 尺程モ如是立ル也

一 火連圖人並五人ツ、クノ目ニ幾年モ

一 命ハ先大並ニテテ又跡ノ足輕先ハ

鉄炮

鉄炮 警固 足輕大将

鉄炮

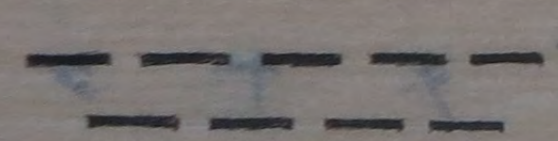


進出ヲテ次第々々如是ス、心此五
人ノ横ノ並ニ五間ニテ一步ニ一人ヲ
立ニ一ノ間ニ三ノ間ハ先ノ一並下跡
ノ並ノ間強大ナレハ近ク三間ナ
ニ立弱小ノ間ナハ遠ク五間ニ立
ルニ間戦ノ時既ニ變ニ臨テハ右ノ法
ニ十ツマス、款ニ依テ宜ニ叶如ク可立
是心得シ

一 大連

小連リノ數多キヲ云又ノ小連ヲ以テ
連リヲ致ス事ナリ、是款ニヨリ此ニ依テ廣場下ノ用小
連リノ數多キト前ノ小連ノ如ク五人
ノ一ニマニメクノ日ニ五十人モ
百人モ立ルヲ云如是心シ

大連ノ數多キト前ノ小連ノ如ク五人
ノ一ニマニメクノ日ニ五十人モ
百人モ立ルヲ云如是心シ



小連リヲ以大連リヲスルハタトヘハ
大足輕百人ナレハニツニノ五十人ツ、
一モヤニニメ只ニ段ニ立ルヲ云シ

五十人

五十人

一 阴阳奇正可有事行殿足輕淳足輕ノ事

一 ヲ 阴トシニ ヲ 阳トス進ニ向ヲ正トシ

傍ヨリ出ルヲ奇トスル也

大足輕ニ 阴阳ヲ組奇正ヲ持入ニ 淳ハ 控

ヲ此 阴阳ハ 備宜カヲサレトハ 勝利全

カヲス 歩卒ニ 別ヲ是ヲ能組ハ 一ノ要

ニ 阴阳奇正ト云ハ 卒文ノ如シ 殿足輕

トハ 先計リニ 非ス 跡殿リニ 三モ 備ル也

殿ノ 備全カヲサレトハ 先ノ 勦存分ニ

ナリ 雅シ 故ニ 足輕 堅固ニ 淳ハ 其ノ 淳

足輕ハ 前後ニ 配リタル 余リハ 足輕ヲ

云シ 是ノ 足輕 不足スルナリ 欠目ニ

一 甲ルニ 淳足輕ヲ 元可設シ

一 一ノ間積リ同立様心得ノ事

間ツモリトハ前ニ云ル如ク先ハ三止

間ニスル此一二ノ間アマリ遠ケレ

ハエトリアリテ直シ戸ラ又近クス

ハハ混雜シテ阴阳分クル全ク此塚

ヲ扱ヌマウニ滞ルニ先ノ足怪ノ間ヨ

リ跡ノ足怪進ニ出ルニ障リニ去ラヌ

様ニ立ヘシ是心得ニ

一 繰懸リソリ引ノ事

ソリ懸リハ先人一並折下跡ノ足怪先

ニ進ニ出テク其間ニ始ニ折タル足怪

玉込シテ又先へ進テ折ニ如是ニテ次

算ニ進ハテ云クソリ引ハ又右ノ心得ニ

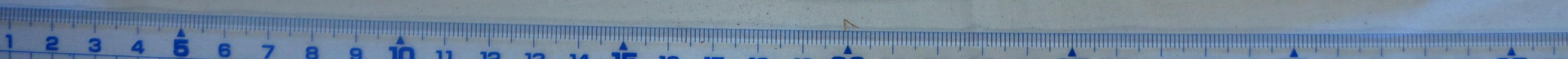
一歩メハ跡へ引一歩メハ跡へ引スル

ハ

一 ツ、ウ立ノ事

衝軌ノ滞リ如立ルヲ云クソリ懸リニメ

一 歩ニ使キ此ニ月ル



一 廣場ニテ大足輕立様ノ事

大連リヲ用ルル百人ヲニツニメ五十人

ツ、ニ段ニ用テ更ルルツルハ放ニス

ルル大人數故敵ハノキケメ直シ

一 敵ニ馬上多キ時大足輕ニ段ニ立様行ハ

口傳ノ事

大足輕ヲ五十人ツ、ニ段ニメ前ニ行

木ヲ送放木ニ引リ陰ニテ玉込ヲメ

行木ノ先ニ左右ヨリ代リ出テ歩シ

敵間近ク来ルニ送放木ノ内ヨリモ

テ立ルルノイハル下馬上達者ニテモ馬

ヲハル事ナラサレシ

○足輕敵ヲ禦ク心得之事

一 滑先ノ足輕ハ膝臺ヲ用ル事

常勇氣ニテモ敵ニ出會ハ氣ノホセ身

震ニテ中放シニハ得テサレ者ニ故ニ

膝臺ニメテスヘキ

一 馬上ノ敵同折敷敵ヲ歩目當人事

馬止ノ敵ハ鞍ノ前輪ヲリ立敵ハエル
手ノ糸ヲ目當ニスルハ越矢ニナル物
故帯ヨリ下ヲ子口ウ心得宜シ

一 敵ヲ見テ討足輕ノ事

前ノニケ糸ハ作込ヲ云是ハ業ヲ云リ
場敷アリテ物馴タル足輕ハ心勤カサ
ル物故作込ニハ物ハラスイカマウニ
メナリトモ仇矢ナキ様ニ敵ヲ子ラニ
テ可討也

一 敵間備間ニ依テ足輕也リ合可始節ノ事

敵間ハ危ニ間吏トニ成テ始ハハ遠
ハ矢玉費アリテ其詮ナシ備間ハ足輕
ト長柄トノ間アリ遠キハ足輕憶ス
ル者ハ然レハ十四五間ハ間程ニ引
テ也リ合テ可始

一 敵戰兩様ノ心得ノ事

常ニ敵ナラスハ當リニハカマハス
手前ヲ凡ニ要ニメ少モ乱レサル様ニ

警古致テスル也 扱戦ニ致リテハ予前

ニハカマワス中リヲテ要ニ可考是心

正心

一 籠城ノ取敵ヲ防心得ノ事

是ハ守城ニ出テ

一 弓ハ近キ勝負也 其遠近度量考テハ事

敵間凡十由五間カトニテ射テスハ

遠間ハ射テモ其能ナキ者ナレハ其積

一 以テ能ク度量スルキ也 合下欲

一 味方洞勢ノ遠近ニ依心得ノ事

洞勢凡三下程ニ来リタルニ先備足

計カル合ヲ始メルカ宜遠キナハ救應成

難ニ

一 足輕大将自分ノ衛心得ノ事

足輕大将ワカ預ノ足輕ヲ能下知メ用

立ルヲ高名トス自分ノ衛ヲナスヲ

不覺ト定ルハ是前篇ニ之月如然レ

上ニ具大将自身ノ衛ヲ一度モナク又

故武勇ヲ工、口ミ度思ノ寸ハ出陣ノ
取具取ヲ新置テ足怪ヲ用ニ立テ足怪
セリ合止タル寸足尸ルヲ退テ自身ノ
御ヲ為ヘシ是心得シ

○足輕武功之事

地利ニ因事

竹木茂リ場田切池ノケ古屋敷如是地理
ハ是ニ因テ敵ヲ可欺ノ地也
廣原平陸ニテハ追崩サレテ尸ルナ

レハ地理ニ便リテ敵ヲ欺テ亦ニ利多
キニコノ竹木茂リ場古屋敷ノ類ハ秋
後ニ當テ備ルニ敵急ニ来ル寸右ノ蔭
ハ引取小楯ニ下リ可ク立為ル田切ノ
ケノ前ニ當テ備ヘ敵ヲ防シ
敵ノ物見ノリ輕重知不知ノ事

敵ニヨリ物見来リ四方ヲ窺フニ其物
見ノリ込ノ場トトノ類殆テ空ク氣ヲ
付ケ見ルヘキ也ヲ輕ク大マウニ見念

ヲ入スノヨキ此ヲ重クミルハ不知不
切者之如是モノ見ナラハ其終ニシカ
マハ大差返スヘシ其輕重ヲ知テ見ツ
モル物見ナラハ是ヲ留テ返スヘカ
ウカルニ

一 敵ノ退マウ實不實ノ事

退様ノ實不實ハ乍候篇ニ出通シ實ニ
ノク敵ナラハ追テラスヘシ不實ナラ
ハ備ヲ全メ追テラスヘカラス

一 弓鉄炮納ノ様ノ事

弓ハ弦ヲ前ニシ上管ヲ左ニ肩ニ納メ
下ハツヲ右ノ膝ニテルマウニ肩へ掛
ルニテツ炮ハ長手扱ノ類ヲ以筒口ト
臺尻ト結筒口ヲ上ニメ弓ノ心ニ左ノ
肩ニカケル是ヲハツソソ掛下云ニ遠
道ナラノ寸或ハ弓鉄ノ迫合スミテ太
尺チヲスル寸ナトノ節如是スルニ

一 足輕集人處ノ事

迫合終テ足カルヲ集ルニ合戦ノ始
ヲサル内ニ足軽大将具アツルニキ處
ヲ見立置カ宜障リナキ處高陽ノ場ヲ
見置テ足軽合終テ右ノ處ニ行テ大将
圓后ヲ立ルニ具組ノ足軽共イツレモ
其處ニ集リ扱テツ炮ヲ洗又玉込ナト
ヲサスルニ具隊本陣ニ懸レハ其處
ヨリ横矢ヲ討取ハ又前条ノ通ニ組テ
太刀折ノ衝ナトヲモナサシムルニ

一 狭キ處ニテ足軽用様ノ事

三 如是段々ニ立テ先ノ足軽折テ折敷
次ノ足軽立テ折テ折敷追々跡追テ又
先ノ足軽立テ折如スルニ
一 足軽不断警古ノ心得ノ事
戰國治國ノ
分別ノ事

常ナラハスニハ高陽ノ地ヨリ見下メ
折取ハ早ヨリ高ヲ折取ハ遠テ又ハ狭
間ヨリ横ヲ折テ警古サスハニ戰國

治國ノ分別ハステニ事ニ臨ミテ足怪
ヲ甲ル寸海内一同ニ乱テ諸方ニ合戦
者之寸ハ矢玉ノ費ヲ隨分厭ヒテ矢掛
リニナリテ少一矢ニテモ仇矢ノナキ
心ニシ天下ニ治リタル敗タトハハ
島原一揆ナトノ如キアリ是ヲ攻ル寸
ハ又其費ヲイトハス隨分ト少立ル心
得ニスヘシ

一 大筒石火矢遠下甲捨ノ事

大筒石火矢ハ遠下ニ用ウル、者ハ然
レトアマリ遠下ナレバ敵入テツセヌ
其能少クシテ一放ニテモ玉薬ハ夥ク
ツヒヘル者ナレバ遠下ヲハ甲捨シテ
矢懸リニ成テ少ヘキニ
一 鉄炮玉薬弓弦矢力ヲ火繩火口竹ケ竹ユ
カケクヌ子替弦所持ノ心得度量ノ事
一 右所持心得ノ度量ハテツ炮ハ三五
一 分玉薬ハ十故分弓弦ハ牽弦矢力ヲハ

二十五正筋火繩ハ三尋程火口ハハ
ンヤヨロシ火布ハスリ火布附竹ハ合
ツケ竹ユカケハ騎馬ユカケクス子替
弦ハ正サシ是凡ノ積リシ
一 早カウトウラシ武切ノ事

早カウハ分切ノ下之竹ヲ切テ用胴乱
其竹組ナトハ惡シ革ニテ作リタルヲ
可用付竹少クナト入置自申ヨク具
足ノ當リモ宜シ

○足輕没義之事

一 下田菊田放火乱坊自燒押ハ人足輕ノ

事

イツレモ前篇ニ出ヌ通りハ是等ヲナ
スニ其役者ハ尸リニテハ全カウヌ押
ハノ爲ニ足輕ヲ出シテ不意ニ備ル是

ヲ押ハノ足輕ト云

一 物見武者ノ送り足輕ノ事

一 處ニ因テ迎足輕ノ事

コノニテ条々介候ニ出物見ヲ送り廻ス
ル皆足怪ノ役シ

一 警固目明ノ足軽大將心得ノ事

是ハ一年ノ足軽大將ニテハナク旗本
ヨリ警固ノ爲ニ侍大將ハ羌添テ出ル
心得具侍ノ足軽ノ勤ニフキトテ
我組ノ足軽ヲハ不出侍ヲ全メ見物ノ
居ルコト口得ニ旗本ヨリ其方ノ組ノ
足軽ヲ出メ今一働ス入ニト下知ノ有

寸出スヘキ爲或ハ侍大將裏切ナラ致
寸ハ討取入キ爲シ

一 撰討ノ足軽ノ事

足軽ノ中ニテモ場敷ヲ経テ心不動ヨ
ク鉄炮ヲ抄上ノ旨ヲエテ大將ノ
測ニ置敵將巡見ニ出ルハ或ハ大物見
ナラノ類搦メ抄不留メ不叶ト云敵ヲ
右ノ足軽ニ抄シ心ルニ是ヲ正リ抄ノ
足片ルナク

一 足輕合ノ事

是足カルノ立様ニ
形ニ因テ用ルニ
四ツアリ敵ニヨリ地

杉形

鉾矢ノ備ノ如
カ、ル備

ナクレ敵

行ノ如廣場ニ
用ユ

箕手形

弯月ノ備ノ如
待降ナリ

ツ、ラ立

衝軛ノ備ノ如彼
處ニ立ル

○夜討夜軍ノ足輕之事

一 夜ウ午夜軍ヲ致スニ足輕用様ノ事

夜少夜軍ノ人数ハ敵ノ陣屋ハ誥寄也

タル寸足怪ヲハ大勢跡ニ降ハ一同ニ

ソルハ敵ニ打セルハ敵是ニ駭キ騒ク

處ヲ夜少ノ人数足本ヨリ起テ打立ル

此寸ニ藥ヲ強メ玉ナシニ打シムル

是甲撮ル夜中ナレハ玉ヲ込テモ具

能ナク却テ味方ヲ害スル失アル故ニ

一 敵夜討夜軍人敗還土居ニテ足怪ヲ用ル
事

敵ヨリ夜抄夜軍ニ来ル賊ハ足怪ヲ遣
土居ハ出シテ玉込ヲシテ抄シムル
夜中ハ味方ノ人数ハ遣土居ヨリ外ハ
ハ出サルト大汰ニ然レハ土居ヨリ外
ナレハ夕トモ味方ニテモ苦シカラズ
内ナレハ敵ニテモ抄ハ片ラズ如是ニ
足怪ニ申付ハ之

一 足輕夜働夜駈ノ事

夜働ハ夜中ニ足怪ヲ用テ敵ノ固屋ヲ
燒或ハ仕ヨセヲ拂ニナトスルヲ云夜
力ケトハ夜更テ敵方ハ出テ関ノ聲ヲ
尸ケ銃炮ヲ抄掛ナトメ敵ノ氣ヲ奪フ
ヲ云

△ 騎戰

馬上ニテ戰ヲナスト古ハ專テ騎戰
ヲ用中古ヨリハ撥テ歩戰ノ馬上ノ働

○

馬ヲ入ル謀切之事

一 小迫合ニ馬ヲ入ル事

大軍ニハ騎戦ナラサレハ馬ヲ入テ

王詮ナシ馬ヲ入ルハ小迫合ニ用ル

ヨリハ歩立ノ衝自申ヨキ故ニ然レ共

一 田ニ騎ヲ不甲ト云ニハ非ス敵ニ依

場ニ依用之ルハ有具不意ハ敵ノ滯

ヘノリ込駈乱メ歩兵ヲ以討シムルニ

其馬ヲ入ル変ヲ工ノ篇ニ云

一 第一之必利アルハ小迫合トハ一年

二年ヲ以戦ヲ云也

敵ノ馬跡ニ見ヘス四方ノ馬多ク續ルハ

其場ヲ見切リ午婁午ヨリ可衆入事

其場ハ平易ニメ足リナキ地形ナラハ

左右ヨリ可衆入馬ヲ入ルニ真向ヨリ

ハ衆入ラレサルニ

一 味方馬少ナラハ其地形ノ様子ヲ見切味

方在リ口傳

馬少ク前ノ通左右ヨリ兼入難キナ
其地取ノ様ナリ見切我死リノ事ナ
方ヨリ敵ノ右追シ付ニ馬ヲ入ヘシ口
傳トハ右ノ通左ヨリ入ルルト煩ナレ
トモ地取ニヨリテ入ラレサルトモ有
者シ然レハ地取ニヨリ時宜ニ從フヘ
シ必左ヨリト云テ一歩ニハ心得入カ
ウス

一 大物見ニ馬足輕ヲ用ル事

馬上達者ニテ駈引自在ナル者ヲ馬足
カルト云敵守テ出リルナ是ヲスク
リ立テ大物見ノ如出シテ敵ヲニヒキ
引出メ取テ近シノリ立洞勢或ハ迎ヘ
滑ヲ以テ歩捕スル

一 速成ルヲ用ル事

兵ハ神速ヲ貴テ操テ戰ハ速カニスル
ニ利アリ就中馬ヲ入ル事ハ速カニス
ヘシ猶勝シテ馬ヲ入ル事ヲ敵察ルナ

ハ其備入設故ソノ詮ナク還テ手段ニ
アノ者ニ然レバ速クニ大迅雷耳ヲ
フナ不能ト云ル如スルナ所要ニ
一 地形ヲ能考可知事

騎戦ハ險阻ノ地形ニテハ不成免吊廣
原平陸ニアラサレハ甲ラレサレ者ニ
サレハ馬ノ入ラルヘキ地形カ又入ラ
ル間敷カヲ能考ヘ知テ後ニ馬ヲ可入
一 國ノ凡俗ヲ考ヘ馬ヲ可入敵ヲ知事

一 風俗ハナラハシニ國ニ依テ弓矢色
類々アリ喻ヘハ東國ハ良馬多違者ニ衆
者多シ西國ハシニテ好テ甲サレカ如
シ又其將ノ持方ニモヨルニ大將馬ヲ
好メハ家中ニモ違者多良馬モアル者
ハ諸具國中馬ヲ常ニ好ム敵ハ馬ヲ
入レサレ者ハ敵國ノ凡俗習ハ
シヲ考テ馬ヲ入ラレハ敵カ又入ラレ
又カヲ諷知ヘキナ馬ヲ入ルニハ此

敵ヲ知事カシ要シ

○馬ヲヘル詞之事

一 棄切

敵ニ崩色付テ敗軍スルニ大勢カタマリ
テ引取敵アルヲ味方ノ勇士五騎十騎討
モ能馬ニテ棄付具敵ノ間ヲ棄切押隔テ
我下ノ者共首ヲ取スルヲ棄切ト云口
傳アリ
一 棄込

敵我城下或ハ陣下迄寄来リテ陣ヲ取
テ立シトスルニ其作込正シカラスシテ
押入ノ備ナクシハ能馬ニ旨ヲスクリ大
物見ニ出シ其處へ棄込難人等ヲ棄タテ
シ其備ヲ乱シテ引取ヲノリ込ト云也
コノニケ各別意ナシ

五

Faded vertical text columns on the right page of the manuscript. The characters are mostly illegible due to fading, but some characters like '五', '一', and '十' are visible.

五

五

